

1. 教育の責任

成人期は、人の発達段階の中で最も長く、多くのライフイベントと社会的役割を担う時期である。成人看護学では、患者を疾患とともに社会生活を営む「生活者」として捉え、その人らしい豊かな人生の実現を支える視点が求められる。そのため、授業から病院実習まで一貫して、入院中の看護だけでなく退院後の生活を見据えた支援を学べる教育を展開している。

2. 教育の理念

国際化する社会で、学生が看護の専門家として活躍できるよう、国籍や言語の違いにかかわらず質の高い看護を提供できる看護師の育成を目指す。また、学生の主体性を育み、自立した看護師へと成長できるよう一人ひとりを尊重し、その可能性を最大限に伸ばすことを重視する。

3. 教育の方法

【急性期看護】：急性看護援助論Ⅰ・Ⅱ、急性看護学実習

急性期看護では、短い在院期間の中で状態が大きく変化する周術期の患者に対し、状態を予測しながら関わり、合併症の予防・早期発見や、形態機能変化に伴う生活の再構築を支える看護が求められる。そのため、講義・演習では、患者の状態の変化を動画や画像を用いてできるだけ具体的にイメージできるようにし、必要な観察ポイントやケアを考えられるよう工夫している。

【慢性期看護】：慢性看護援助論Ⅰ・Ⅱ、慢性看護学実習

慢性期看護では、患者を疾患だけで捉えるのではなく、これまでの生活で大切にしてきた価値観や、疾患を抱えながら今後どのように生活したいのかといった意向を、全人的に理解することが求められる。そのため、事例学習や実際の患者の動画を活用し、疾患とともに生きる人々を支えるために必要な知識や思考を深められるよう工夫している。

急性期・慢性期を含む成人看護学の授業全体では、「からだを知らずして看護はできない」という考えを繰り返し伝え、解剖生理を理解したうえで、なぜその看護が必要なのかを考えられる授業構成としている。また、教科書の内容だけでなく、私自身の臨床での体験や看護師として感じたことも交えて伝えることで、学生が看護の場面をイメージし、「自分もこんな看護をしてみたい」と思えるような授業を心掛けている。さらに、授業ではICTを活用し、国試問題を解いて正答率を全体で共有したり、グループワークの意見をスマートフォンから入力してスクリーンに反映させている。これにより、学生の考えをリアルタイムで把握し、適切なフィードバックを行う双方向型の授業を実践している。

4. 教育の成果

【リアクションペーパー】

急性看護援助論Ⅰでは、授業中に紹介した私自身の臨床経験や実習指導でのエピソードについて、学生から「自分の実習場面を思い出し、自分事としてとらえて共感しながら考えることができた」という意見が多かった。慢性看護援助論Ⅰでは、「解剖生理と関連づけて疾患を学べたため理解しやすかった」、「動画を通して患者の実際の生活を具体的に理解できた」などの意見が多かった。

【学生の反応】

授業中の復習として国試問題を解く際、挙手で回答はなかなか得られないものの、スマートフォンで回答を送信してもらう方法では、ほとんどの学生が参加した。その結果、全体の正答率の分布を共有でき、誤回答が多い選択肢について詳しく解説することが可能となった。また、グループワークでも、全体の場でマイクを向けられると発言しにくい学生も、スマートフォンで意見を入力しスクリーンに反映する方法では、全グループが積極的に意見を投稿した。他グループの意見にも興味を持ち、画面を見ながら活発に読み合う様子がみられた。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：伊東 真由美 作成日：2025年12月8日

5. 改善への努力と今後の目標

引き続き、臨床場면을イメージしやすいエピソードを取り入れ、動画や画像を活用した視覚的に理解しやすい授業を心がけていく。今後は、授業の中で生じた疑問や関心をきっかけに、学生が自ら調べて知識を深められるよう動機づけを強化したい。また、受動的に聞くだけの授業ではなく、シミュレーションや体験学習を通して疾患や患者への理解を深め、具体的な看護を考えられる学習機会をさらに充実させていく。そのために、学生の意見や反応を丁寧に把握し、より効果的な授業構成を検討していく。

【添付資料】

- ・授業資料
- ・ICTによる学生の回答や意見投稿資料
- ・リアクションシート
- ・事例教材（事例シート、動画）